

ブレーミア

「時代」という名の 合唱団



はじめに

「合唱団ブレーミア」が生まれたのは 1985 年 1 月。それから 15 年あまり、メンバーの変動もありましたが、週一度の練習、年一度のコンサート（ライブ）をベースに、活動を着実に進めてきました。もともと大阪大学混声合唱フロイント・コールの OB で結成したのですが、その後 OB 以外の仲間も加え、現在にいたります。

「ブレーミア」というのは、ロシア語で「時代」という意味です。その名の通り、同時代に生きる自分たちの気持ちを大事に曲作りに取り組んできました。何度もステージにのせた曲の中には、聴衆の皆さんに愛されるようになった歌も数々あります。

ここ 15 年は本当に激変の時代でした。この先一体どうなってしまうのか、とたたずんでしまうシーンが数多くありました。人が暮らしていくのに本当に必要なものは何なのか、と常に突きつけられているような、そんな 15 年だったと思います。そんな時代の一区切りとして、この小冊子を刊行しました。

いつもブレーミアの歌を聴いてくださっている皆さん、影になり、日なたになり支えてくださっている皆さん、本当にありがとうございます。

これからも私たちは歌い続けていきます。どうぞ変わらぬご支援をお願い申しあげます。

2000 年 7 月

合唱団ブレーミア



どーんライフ '98

活動紹介

年一度のライブが活動のメインになるため、活動の年間スケジュールはライブを中心に組んでいます。

□練 習

活動のベースとなるのが練習。通常は、毎週土曜日の夜、7時から9時まで、ほぼ大阪市内の会場を借りて行っています。ここ数年は、月に1回3時間の集中練習日を設けています。この日は子育て中の



夏合宿練習風景（1989年）

仲間が参加しやすいよう、ベビーシッターを依頼して、保育もあわせて行います。

ステージでは、指揮者をおいていませんが、練習ではさすがに指導担当者が必要となります。練習・創作担当者を私たちはディレクターと呼んでいます。曲ごとに数人のディレクターが、分担して指導しています。

ただし、ブレーミアでは指導者が絶対というわけではありません。そこが面白いところです。編曲も訳詞もみずからのお手でおこなうので、練習を始めるときには未完成。練習をし、実際に声を出してあわせてみて、ブラッシュアップしていきます。そういうわけですので、曲によっては完成までに何年も費やすものもあります。もちろん、ノリよく数週間の内に完成するものもあるのですが。

□合 宿

毎週2時間の練習だけでは、ステージづくりまで進むことはまず、できません。そのため、年2、3回の合宿も行います。

合宿場所はだいたい大阪市内のユースホステルが多いのです。練習も、体力づくりもおこないたいのですが、曲選びの話し合いに終始することもたびたび。議論が深更に及ぶことも多く、（ただし、さすがにアルコール付きです）合宿明けはヘロヘロなんてこともあります。

□ステージづくり

練習・創作の担当はディレクターグループと呼びますが、舞台作りの集団をプロデューサーグループと呼んでいます。愛称は「キープロ」（正式にはKIWI プロダクション）この語源には初代プロデュ

ーサーグループの頭文字を集めた、とか、果物のキウイのように外見はともかくも中身は美しく味の良いものにという願いが込められているとかの説がありますが、どっちが本当か……。多分どちらも正しいのでしよう。

キープロのチーフは代々「社長」と呼ばれていて、ステージづくりのみならず会場との交渉、チケット販売、情宣活動の指揮をとっています。

なるべくたくさんのステージをもちたいため、機会を見つけては出没したいと思っているブレーミア。数年前までは、「故郷」ともいえる大阪大学混声合唱フロイント・コールの発表会(定期演奏会)に出演させていただいていました。その他、大阪府の女性センターであるドーンセンターが開催するドーンフェスティバルにも参加。どーんライブと銘打って、パフォーマンスを行いました。数多くの新しい聴衆の皆さんとふれあえる機会をこれからもさがしていきたいと思っています。

□マネジメント

さて、練習、合宿、ステージとなると、会場の調整、連絡事項の伝達、ベビーシッターの予約、会計、はたまた打ち上げや忘年会の手配まで、雑多な仕事が多く発生します。この裏方的な仕事に携わるのがマネージャーグループ。団の活動を支えています。

連絡の伝達においては、15年の歳月は大きく、その方法は格段の進歩を遂げました。創立当時は、コピーを手配り、また郵送、あるいは電話連絡網などを使用していましたが、現在ではファックスやインターネットの電子メール、またはメーリングリストを使用しています。時折、楽譜がファックスで送られてくることもあります。



夏ライフ'98

演奏の特徴



夏ライフ'98

ブレーミアの特徴は大きく分けて3つあります。

- (1) 指揮者がいない
- (2) すべて日本語(いくつかの例外はのぞく)
- (3) 自由自在なパート

一般的な合唱のスタイルからは奇異に思われるかもしれません、ブレーミアには指揮者がいません。聞き手の皆さんに直接届くような演奏形態をめざしたかったからなのです。最初はとまどいながらスタートしたこの形態にも、今ではすっかり慣れました。皆さん、お聞きになっていかがでしょうか。

(2)の、すべて日本語で歌うということについては、こだわりがあります。ブレーミアでは数多くの外国の歌を取りあげており、ほとんど自分たちの手で訳詞をつくっています。原語の響きを大切にしたい、という立場もあるでしょうが、私たちは原詩に込められた意味を大事にしたい、また、聞き手の皆さんに直接伝えたいと、この立場をとりました。その

ため、ちょっと聞き慣れない詩もあるかもしれませんね。また、聞き慣れた曲でも「えっ、こんな意味だったの」と驚くような内容の歌も少なくありません。そんな驚きを皆さんに伝えるのも私たちの役割かな、と思っています。

また、こんなやり方もとっています。それは通称「借曲」と呼んでいる方法。

日本語の詩によく知られているメロディーをのせて歌うのです。このやり方で、「わたしが一番きれいだったとき」(原詩:茨木のり子)をジョン・レノンの「イマジン」にのせて、また、「雨ニモマケズ(原詩:宮沢賢治)」を「アメイジング・グレイス」にのせて歌っています。もちろん、歌いやすいように、原詩を少しアレンジはしているのですが。

日本語が伝わりやすいように歌う、これもブレーミアの目標の内。ですから、クラシック唱法(ベルカント唱法)だとちょっと日本語にはむずかしいのではないかと思い、私たちは採用していません。ただ、どんな唱法がもっとふさわしいのか、ということについては、現在も模索中です。

(3)の自由自在なパート選定について。もちろん、個々人音域が違いますから、極端な動きはありませんが、固定的にソプラノ、アルト、テナー、ベースと分けているではありません。曲によっては、メロディーとバックコーラスに分かれるものもあります。各パートからメロディー担当を出す場合もあります。三声に分かれる場合は、好きなパートを選ぶということは、よくあります。

伴奏は、フォークギターとピアノが中心。ときには、三線、打楽器、リコーダーなども取り入れます。また、ア・カペラにも取り組んでいます。

おもな レパートリー

ブレーミアの60数曲のレパートリーの内、ほんの一部ですが、ご紹介します。

「この国中に」

If I Had A Hammer

50年ほど前のアメリカのフォークソングです。民主運動などの抑圧が激化していく状況のもとで、ウィーバーズというグループが作りました。後にピーター、ポール＆マリーなどのほかの歌手によってもヒットするなど、フォークソングのスタンダードとも言える曲です。

「わたしが一番きれいだったとき」

IMAGINE

「わたしが一番きれいだったとき、わたしの国は戦争に負けた。そんな馬鹿なことってあるものか」というこの詩は、敗戦から10年くらいのうちに茨木のり子が発表しました。歌にするためにつくられたものではないと思いますが、何人もの人が曲を付けているインパクトのある詩です。私たちはジョン・レノンの「イマジン」にのせてつくってみました。

「陽はいつか昇るだろう」

I Shall Be Released

原曲はボブ・ディラン。多くの歌手によ

って歌われてきているフォークソングのスタンダードナンバーといつてもよいでしょう。現代的な意味を込めて詩をつけてみました。

「ばら」

The Rose

若くして世を去った歌手ジャニス・ジョプリンをモデルにした映画「ローズ」のエンディングテーマ。「迷いの中でも光を求めよう」という主題が私たちの気持ちにもよくあって、最近、どのステージでも歌っている曲です。

「牛追いの歌」

アメリカ民謡

訳詞・編曲 合唱団ブレーミア

今から100年少し前、アメリカはテキサス州。見渡す限りの荒れ野原、猛牛の群を追い立てて走るカウボーイたちが歌っていたのがこの歌。この牛たち。その数ときたら一群3000頭くらいが普通だったというから、カウボーイも楽じやないですね。馬の足音、鞭の音、荒くれ男の罵声、その裏に響いてくるのは遠く離れた故郷への思いでしょうか……。

「父ちゃんは豚箱の中」

作詩・作曲 マルビナ・レイノルズ

訳詩 阪大ニグロ

「過激な黒人運動家」のかどで、警察に父親を連れて行かれた子どもの話です。黒人が白人と同等な人間であると主張することが犯罪とされ、警察権力が積極的に人種差別を擁護していた時代のアメリカでつくられました。

理不尽な力でねじ伏せられた子どもの悔しさ。これはアメリカのことに留まるものでも、人種差別のことに留まるも

のでもないかもしれません。

「アンヘリータ・ウェヌマン」

詩・曲 ビクトル・ハラ

南米チリの寒村。そこに住むインディオの機織りの姿を歌っています。古く先祖から伝わる方法で美しい布を織りあげていくその姿は、まるで魔法を見るかのようです。チリの新しい歌(ヌエバ・カンシオン)の先導だった、ビクトル・ハラの作品です。

「やんばるの歌」

詩・曲 知名貞男

沖縄の女性グループ「ネーネーズ」の歌です。原詩は沖縄の言葉「ウチナーグチ」でしたが、わたしたちなりに訳してみました。子どものころに見た母親が苦労して働く姿は、何かしらまぶたに焼き付いているものです。懐かしい響きの曲。

「サマータイム」

Summertime

曲 ジョージ・ガーシュウィン

原詩はガーシュウィンとヘイワードによります。この曲はオペラ「ポーギーとベス」の中で歌われる子守歌。舞台では貧しい黒人の母親によって歌われるこの歌、



たなばたライブ(1994年)

ジャズのスタンダード・ナンバーとしても有名です。

「サンライズサンセット」

Sunrise Sunset

原詩はシェルトン・ハーニック、作曲はジェリー・ボック。ミュージカル「屋根の上のバイオリン引き」のナンバーです。帝政ロシアの片田舎、貧しいユダヤ人の村でつましくも暖かい結婚式の場面で歌われます。訳詞は阪大ニグロによるものです。

「蚤の歌」

曲 ムソルグスキー

ロシア5人組の一人、ムソルグスキーによる歌曲で、原詩はゲーテのファウストのロシア語の訳からとられています。もともと独唱用のこの曲を私たちは合唱に仕立ててみました。ちっぽけな蚤に翻弄される人々の滑稽な姿は、どんな時代にもみられるものかもしれません。

「ウォルシング・マチルダ」

オーストラリア民謡

観光地として私たちにもなじみ深いオーストラリアでは、国歌のように親しまれている愛唱歌です。規則や法律に縛られることをきらい、たくましく生きている風来坊の姿がコミカルに描かれています。なおマチルダとは、風来坊が持ち歩く、ずだ袋のことです。

CD自主制作



ジャケット写真

創立15年を記念して、2000年にCDを自主制作しました。

名付けて「自歌自贊——ライブでつづるブレーミアの15年——」。ライブ演奏、いずれも初演をおさめています。

【収録曲】

1. Deep River

スピリチュアル
収録 1986年

2. 牛追いの歌

アメリカ民謡
収録 1987年

3. 蚊の歌

詩ゲーテ／曲 ムソルグスキー
訳詞 堀内敬三
収録 1988年

4. 南アフリカの子守歌

南アフリカ民謡／詩 ブレーミア
収録 1989年

5. 愛のマーチ

南アフリカの歌／詩 ブレーミア
収録 1989年

6. サマータイム

詩 ハイワード／曲 ガーシュワイン
収録 1990年

7. ウォルシング・マチルダ

オーストラリア民謡
収録 1992年

8. 陽はいつか昇るだろう

詩・曲 ボブ・ディラン
収録 1993年

9. 海の子守歌

詩・曲 海勢頭 豊
収録 1994年

10. わたしが一番きれいだったとき

原詩 萩木のり子／曲 ジョン・レノン(イマジン)
詩 ブレーミア
収録 1995年

11. バラバラ

詞 忌野清志郎／曲 H.リボック
収録 1995年

12. ばら

詩・曲 アマンダ・マクブルーム
収録 1995年

13. この国中に

詩・曲 ピート・シーガー
収録 1996年

14. 星とたんぽぽ～大漁

詩 金子みすゞ
収録 1996年

15. 雨ニモマケズ

原詩 宮沢賢治／曲 不詳(Amazing Grace)
収録 1996年

16. サラリーマン・ブルース

曲 憂歌団／詩 ブレーミア
収録 1997年

17. ザ・リバー

詩・曲 ブルース・スプリングスティーン
収録 1998年

18. 何より大切なものの

詞 リンダ・クリード／曲 マイケル・マッサー
収録 1998年

19. みのりの牧場

詩 ウディ・ガスリー／曲 アメリカ民謡



合唱団ブレーミア 演奏曲目 1986年～1999年



上から
ジョイント・コンサート(1986年)
フリーダム・コンサート(1989年)
ファースト・ミニ・ライブ(1991年)

1986年6月22日
フロイント・コール&ブレーミア
ジョイントコンサート

深い河
朝日のあたる家
綿つみの歌
ジョン・ヘンリー

1987年12月13日
フロイント・コール第30回発表会[客演]
牛追いの歌
白髪は雪のよう

1988年12月11日
フロイント・コール第31回発表会[客演]
行商人
蚤の歌
牛追いの歌

1989年9月15日
フリーダムコンサート'89
[緑地公園野外音楽堂]
終わりなき旅
父ちゃんは豚箱の中
南アフリカの子守歌
愛のマーチ

1989年12月17日
フロイント・コール第32回発表会[客演]
父ちゃんは豚箱の中
南アフリカの子守歌
愛のマーチ

1990年10月10日
フリーダムコンサート'90
[大阪聖マリア大聖堂]
サマータイム
父ちゃんは豚箱の中
ジョン・ヘンリー

1990年12月16日

フロイント・コール第33回発表会[客演]

ジョン・ヘンリー
サマータイム
サンライズ サンセット

1991年12月14日

ファースト・ミニ・ライブ

[ミノヤ・ホール]

牛追いの歌
エリー運河
ジョン・ヘンリー
ウォルシング・マチルダ
デイ・オー
スキン トゥ スキン
父ちゃんは豚箱の中
サマータイム
南アフリカの子守歌
サンライズ サンセット
愛のマーチ



セカンド・ミニ・ライブ(1992年)

1992年1月11日

フロイント・コール第34回発表会[客演]

ウォルシング・マチルダ
エリー運河
サンライズ サンセット

1992年12月13日

フロイント・コール第35回発表会[客演]

腰まで泥まみれ
朝日のあたる家
ウォルシング・マチルダ

1993年3月

セカンド・ミニ・ライブ

[トライホール]

宴の歌
グァンタナメラ
エリー運河

朝日のあたる家
腰まで泥まみれ
南アフリカの子守歌
グリーンランドの子守歌
サマータイム
陽はいつか昇るだろう
綿つみの歌
ソンマグワザ
牛追いの歌
ウォルシング・マチルダ
人生はダンス
サンライズ サンセット

1993年12月19日

フロイント・コール第36回発表会[客演]

陽はいつか昇るだろう
かあさんはのらしごと
綿つみの歌

1994年7月9日

たなばたライブ～ブレーミアの夏祭り

[トライホール]

そうらん節
琉球船の歌
海の子守歌
南アフリカの子守歌
かあさんはのらしごと
ウルトラセブンのテーマ

空にはお星さま
朝日のあたる家
サマータイム
マリア マリア
牛追いの歌
綿つみの歌
陽はいつか昇るだろう
サンライズ サンセット
人生のダンスパーティー

1994年11月
どーんライブ'94

[ドーンセンター]

陽はいつか昇るだろう
琉球船の歌
朝日のあたる家
エーメン
綿つみの歌
かあさんはのらしごと
アナ・アスルドウイ
マリア・マリア
人生はダンス

1994年12月24日
フロイント・コール第37回発表会[客演]

朝日のあたる家
サンライズ サンセット
陽はいつか昇るだろう
わたしが一番きれいだったとき

1995年7月8日

夏らいぶ

[トライホール]

心の花束
ウォルシング・マチルダ
バラバラ
海の子守歌
朝日のあたる家
腰まで泥まみれ
わたしが一番きれいだったとき
かあさんはのらしごと
サンライズ サンセット
雨ニモマケズ
サマータイム
陽はいつか昇るだろう
明日に架ける橋
ばら
デイ・オー

1995年11月
どーんライブ'95

[ドーンセンター]

デイ・オー
かあさんはのらしごと
朝日のあたる家
わたしが一番きれいだったとき
バラバラ
雨ニモマケズ
ばら

フロイント・コール第31回発表会にて客演(1990年)



1995年12月14日

フロイント・コール第38回発表会[客演]

わたしが一番きれいだったとき
バラバラ
デイ・オー(ナトリウムが漏れちゃった)
ばら

1996年7月13日

夏ライブ

[トライホール]

雨ニモマケズ
わたしと小鳥とすずと
星とたんぽぽ
バラバラ
海の子守歌
たとえこの道が
この国中に
南アフリカの子守歌
ウォルシング・マチルダ
牛追いの歌
父ちゃんは豚箱の中
サマータイム～朝日のあたる家
陽はいつか昇るだろう
ばら

1996年11月9日

どーんライブ'96

[ドーンセンター]

この国中に
雨ニモマケズ
わたしが一番きれいだったとき
わたしと小鳥とすずと
星とたんぽぽ
大漁
海の子守歌
たとえこの道が
陽はいつか昇るだろう
ばら
この国中に

1996年12月21日

フロイント・コール第39回発表会[客演]

雨ニモマケズ
星とたんぽぽ
大漁
サラリーマン・ブルース
この国中に

1997年7月12日

夏ライブ

[トライホール]

バラバラ
この国中に
保線音頭
かわいいロージー
雨ニモマケズ
サマータイム
朝日のあたる家
ワインモエ
エーメン
やんばるの歌
人生はダンス

どーんライブ'98



グアンタナメラ
デイオー
アンヘリータ・ウェヌマン
サラリーマン・ブルース
明日に架ける橋
ばら
陽はいつか昇るだろう

1997年11月8日

どーんライブ'97

[ドーンセンター]

この国中に
アンヘリータ・ウェヌマン
やんばるの歌
わたしが一番きれいだったとき
サラリーマン・ブルース
陽はいつか昇るだろう
ばら

1998年7月26日

夏ライブ

[トライホール]

人は誰も
綿畑
マリア・マリア
ばら
さとうきび畑
明日に架ける橋
ザ・リバー
サマータイム

夏ライブ'98



アンヘリータ・ウェヌマン
わたしが一番きれいだったとき
この国中に
何より大切な物
雨ニモマケズ
陽はいつか昇るだろう

1998年11月7日

どーんライブ'98

[ドーンセンター]

この国中に
人は誰も
朝日のあたる家
サマータイム
わたしが一番きれいだったとき
ばら
何より大切な物
雨ニモマケズ

1999年7月10日

夏ライブ

[トライホール]

ラメント・ボリンカーノ
朝日のあたる家
ザ・リバー
深夜の超特急
ボクサー
ウォルシング・マチルダ
サマータイム
みのりの牧場
人は誰も
わたしが一番きれいだったとき
海の子守歌
ばら
家賃
ファナ・アスルドウイ
陽はいつか昇るだろう
何より大切な物

合唱団ブレーミア メンバーのプロフィール

池昌志 *Masashi Ike*



いけ・まさし 創団メンバー。

かなりのレパートリーのギター伴奏をおこなう。また、訳詞・編曲など創作活動のリーダー。合唱指導もわかりやすく、団内の信頼と尊敬をうけている。が、「もっとちゃんとやれよ、といわれてるような気がするな。がんばります。はい」と至って謙虚だ。今後のブレーミアでは人生の余裕、大人の視野の広さを出したい、そんな曲をオリジナルでつくりたいと思っている。パートはベース。好きなレパートリーは「雨ニモマケズ」「陽はいつか昇るだろう」「ばら」……8割くらいは大好きだそうだ。「ブレーミアは自分のアイデンティティをそのもの、仕事より大切かもしれない、お金にはならないけどね」。

池美保 *Maho Ike*



いけ・みほ 創団メンバー。

ソプラノの中心、その美しい歌声でソロパート演じることの多い彼女は、なくてはならない人物。声にもますます磨きがかかり、表現も深みがでてきた。彼女にとってブレーミアは活力を得る場だそうだ。彼女の歌声を聞いた人も活力が得られることだろう。さて、優しい顔をして、実ははっきりモノ申す人なので、頼りがいのある女性なのだ。その彼女、今後、ブレーミアが対外的にも活動の場を増やしていくたらいいなあ、と考えている。お気に入りのレパートリーは「雨ニモマケズ」「なんてすてきな世界」。

出原賢治 *Kenji Idebara*



いではら・けんじ 1985年入団。

他のことに関しては割に大ざっぱなのに、こと歌に関してはこだわり派。「小うるさい存在じゃないかな」。彼の音楽づくり、歌作りに関する熱い思いが、ゆっくりとした語り口で確実に語られていく。歌は自分の表現の一つ、彼自身の中で大きな部分をしめている。「それにブレーミアで培った友人関係は宝物ですよ。^{ブレーミア}時代は永遠。いつまでも歌いづけたいですね」。パートはベース。好きなレパートリーは「ばら」「海の子守歌」

菊池洋 *Hirosi Kikuchi*



きくち・ひろし 1991年入団

この人ほど楽しそうな顔で歌う人を見たことがない。「いまは、自分が何を歌いたいか、じっくり見つめなおし、その歌声に触れたとたん、相手に伝わるくらいの表現力を身につけたい」と語る。その表現力を身につけるために、他の合唱団へも「修業」に出かけている。ブレーミアでもその明るいキャラクターで「創造と表現」を存分に行ってほしいものだ。パートはテナー。好きなレパートリーは「この国中に」「陽はいつか昇るだろう」「父ちゃんは豚箱の中」

木村奈保子 *Naoko Kimura*



きむら・なおこ 1995年入団。

熱心にライブに通ってくれるお客様がいた。「歌おう会」では素人離れした声で熱心に歌ってくれる。アンケートも念入りに記入してくれる。ある日練習場に彼女がいた。「新入団員です」。以来誰よりも熱心に練習に参加するメンバーだ。彼女にとってブレーミアは「歌う〇〇」になれる場所(〇〇にはTPOにあわせて様々な言葉が入るのだそうだ)。最近はボランティアで老人ホームで月一回歌っている。パートはアルト。リコーダーの伴奏もこなす。好きなレパートリーは「バラ」「わたしが一番きれいだったとき」「朝日のあたる家」ほかフルクローレの数々。

小西享 *Kyo Konishi*



こにし・きょう 1987年入団。

「社会人には、遊びとは違うサークル活動が必要だ」が持論。その発現の場がブレーミアなのだろう。ブレーミアにとっての自分は「コーヒーに入る塩か、おつまみについてのピーナツかな」と言う。味わいを引き締める重要な役割なのだ。団きっての超ユニークな発想とほのぼのした人柄が持ち味。仕事や育児でなかなかフルに参加できなかったが、今後は積極的に時間を作つて参加できそうだ。そしてめざすのは、SSW。^{シンガーソングライター}パートはバリトン。好きなレパートリーは、「みのりの牧場」「ザ・リバー」「わたしが一番きれいだったとき」

篠田素乃 *Sono Shinoda*



しのだ・その 1998年入団。

他の合唱団のピアニストだった彼女。「一緒に歌えるとこ、ないかなあ」と、ブレーミアの入団勧誘チラシを、ある合同ステージで手にした。それがブレーミアとの出会い。歌いたい彼女に、ちょっとおよび腰ながら、ピアノ伴奏を依頼したところ、快諾を得た。現在のレパートリーのピアノ伴奏はすべて彼女の編曲＆演奏だ。団の演奏の幅もとても広く豊かになった。パートはアルト。お気に入りのレパートリーは「海の子守歌」「雨よ降れ」「もう泣かないで」「この国中に」

橘大志 *Taishi Tachibana*



たちばな・たいし 1988年入団

その体つきが物語るように、うらやましいくらい、いい響きの声をもっている「それはたくさん食べるからです」(本人談)。ある日一緒に食事をしたが、話題がとぎれ、「咀嚼音」のみが鳴り響く状況となった。——ご飯って、おしゃべりしながら食べるのが楽しいんと違うの? 「ううん、早く、たくさん食べるのが楽しい」。……ごもっとも、「ブレーミアはいろんなところでステージをもって、大阪名物の合唱団になるといいよね」。うん、それで各地の「うまいもん」も楽しみにしよう。「蚤の歌」では王様の役に励む。パートはベース。好きなレパートリーは「雨ニモマケズ」「ばら」「明日に架ける橋」

谷田京子 *Kyoko Tanida*



たにだ・きょうこ 1995年入団.

仕事でもなければ趣味でもない、すでにブレーミアが生活の一部になってしまっている彼女。かわいい、といわれる彼女だが、舞台づくりにはなくてはならない人物である。そう、舞台づくりの部署「KIWIプロダクション」チーフ(社長とよばれる)なのだ。わがままな意見百出の舞台づくりでは調整が要。今後もその経験と興味を活かしてやっていきたいと言っている。パートはソプラノ。お気に入りのレパートリーは「わたしがいちばんきれいだったとき」「何より大切なものの」「ばら」

千葉潮 *Ushio Chiba*



ちば・うしお 1985年入団。

ステージが大好きな彼女は、ブレーミアのライブを「元気をもらってよかったなど観客の皆さんに思ってもらえるものにしたいといつも思っている」のだそうだ。明るく元気いっぱいなので、ステージの華、といわれているが本人は照れている。今後は深みのある歌、しんみりと来る歌ちゃんと歌えるようになりたい、と言っていた。なお、しゃべらせたらとまらない、という特技の持ち主。パートはアルト、ときおりソプラノ、ごくたまにベース。好きなレパートリーは「ばら」「雨ニモマケズ」「わたしが一番きれいだったとき」

土田元子 *Motoko Tsuchida*



つちだ・もとこ 1987年入団。

育児や仕事などでなかなか姿を見せてくれないが、ステージに立つとしつくりなじむ。「ブレーミアは自分を取り戻す場所」という彼女の真の姿が、ステージににじみでるからだろう。今後5年、10年先、自分がどんな姿で歌い続けているのか、それを見たいという。「楽しければそれで終わりというわけではない活動へのかかわりが人生には必要なではないでしょうか」。今後の積極的な活動が楽しみだ。パートはソプラノ。好きなレパートリーは「蚤の歌」

津守和枝 *Kazue Tsumori*



つもり・かずえ 1995年入団。

女声部の最若手。明るい雰囲気を作り出す人柄で、みんなに愛されている、歌がもつとうまくなつて、プロデビュー(冗談です!とは、本人の弁だが)したいらしい。そろそろ「ソロ」デビューしては?との影の声も聞く。ブレーミアは、いろんな事柄に流されがちな自分を見つめる機会の一つ。そして少しでもたくさんの人々にブレーミアの演奏を聴いてほしい、という彼女。素早い行動力も魅力的だ。パートはアルト。お気に入りのレパートリーは「ばら」「人は誰も」「陽はいつか昇るだろう」。ちなみにお酒を飲ませたら止まりません。

服部光太 *Kota Hattori*



はっとり・こうた 1985年入団

「いろんなところへ出向いて歌いたいなあ」。彼の口癖である。長年やっていても、対外的には今一つ活動できていないのを菌がゆく思っているのだろう。その彼は、ブレーミアのソリストとして、合唱指導者として重要な役割を果たし、豊かな声と表情は観客の皆さんを魅了している。それだけではない。意外なようだが、非常に繊細な感性をもつていて、団員も一目置く存在である。現在、団の代表もつとめる。パートはベース。好きなレパートリーは「海の子守歌」「ばら」

浜川達郎 *Tatsuro Hamakawa*



はまかわ・たつろう 創団メンバー。

この人がいなければ今のブレーミアはないと
言ってもいい。ブレーミアのビジョンをいつも
求め続けているのが彼だ。その働きはまさに
献身的。様々なアイデアが生まれる頭のなかを一度のぞいてみたいもの。彼にとっての
ブレーミアは「夢を映す鏡」のようなものである。
いつまでもブレーミアを刺激し続けて
ほしいと思う。ブレーミアのステージの演出
を数多く手がける、今後一歩外に出て、ブレ
ーミアを見つめる存在になりたいそうだ。パ
ートはテナー。時折ソロも。好きなレパート
リーは「朝日のあたる家」「ザ・リバー」「雨
よ降れ」

福嶋順 *Jun Fukushima*



ふくしま・じゅん 1999年入団。

最若手のメンバー、なのに団員も知らないよう
な昔のフォークソングを知っていて、フル
コーラスを歌えたりなんぞする。本人は「ご
年配の方々ばかりで気疲れしますわ、も一
大変」などとのたまうが、心配ご無用。すんなり
古手の団員に馴染んでいる。優れた感性を
活かし、寸劇の演出や演技指導もする。楽器
の腕前も相当なものだから、彼の伴奏姿を見
る日も近いだろう。が、とりあえずはかっこ
よく歌えるようになりたいそうだ。パートは
テナー。お気に入りのレパートリーは「何よ
り大切な物」「牛追いの歌」「もう泣かない
で」

藤村直哉 *Naoya Fujimura*



ふじむら・なおや 1985年入団。

ブレーミアでは数々の沖縄生まれの歌を歌ってきた。紹介者はこのひと。沖縄好きが高じて、数年前から三線を習いにいっている。好奇心が強い彼は、コリア文化にも造詣が深い。ハングルもこなす。さまざまなどころへ伸ばすアンテナがキャッチする情報は、メンバーをほどよく刺激する。はじめて温かな人柄の表れた司会ぶりにはファンも多いようだ。パートはテナー。好きなレハートリーは「ばら」「雨ニモマケズ」「海の子守歌」「ザ・リバー」「もう、泣かないで」

堀部奈美 *Nami Horibe*



ほりべ・なみ 1986年入団。

「アルトの芯・支え」と呼ばれる彼女。その音楽的なセンスには定評がある。かつてはピアノ伴奏などもつとめた。しかし人柄を反映してか、その発言は控えめ。「枯れ木も山のにぎわいってどこでどうか?」いえいえ、とんでもない。あなたがいなけりゃアルトはやっていけません。これからも自分も楽しみ、人にも楽しんでもらう演奏をしていきたいという。好きなレパートリーは「わたしが一番きれいだったとき」「人は誰も」「ファナ・アスルドウイ」

松井良輔 *Ryosuke Matsui*



まつい・りょうすけ 1986年入団。

ブレーミアで一番目立つ存在かも。なんといってもからだがでかい、声がでかい。途中3年間ドイツに滞在していたが、そのときにたくさんの音楽にふれ、その滋養を蓄えてきた。が、蓄えたのは音楽だけではなく、「おにく」もだった！ 大きな体だが、朗らかでやさしい気性の彼。まさにテナーの柱である。迫力のある歌唱指導者でもある。「ブレーミアは、どう生きるかについてつねに向き合う場所だ」という彼。今後ももっとうまくなりたい、いろいろなジャンルの曲に積極的に挑戦していきたいと語る。好きなレパートリーは「ばら」「ジョン・ヘンリー」「明日に架ける橋」「なんてすてきな世界」「深い河」。なお、パーカッションもこなす。

渡辺明子 *Akiko Watanabe*



わたなべ・あきこ 1987年入団。

澄んだ声とやさしい容姿でいつまでも少女の面影を残すが、実はなかなか芯の強い女性なのだ。パートはソプラノだが、歌唱指導者としても抜群のセンスをもっている。ほんわかとした司会ぶりにも定評がある。「変わらない大切なものを求め続けたいですね。これからも心に響く歌をさがし、歌っていきたい」という彼女、実は酒豪なんです。お気に入りのレパートリーは「朝日のあたる家」「何より大切なものの」「ザ・リバー」



編集後記 ······

一人では歌えない歌もブレーミアで歌う
と一つの歌となり、さらに、ますますバージョンアップしていける。ふだんの私個人
ならできないことが少しずつできるよう
になるというこのブレーミアは今では大切な
場となっています、歌だけでなく、メンバー
との、そしてお客様との出会いを通じ、
これからも生きていく上での糧として関わ
っていきたいです。 (渡辺明子)

メルセデス・ソーサ(アルゼンチンのフ
ォルクローレ歌手、ヌエバ・カンシオン—
新しい歌の担い手で、ブレーミアも彼女の
レパートリーを数多く採用している)の
レパートリーに「すべては変わる」という
曲があります。「すべてのものが変わる
けど、私の愛は変わらない」というのがこの
曲のメッセージですブレーミアもこの15
年間、時代が激変した中で変わらない大切
なものを歌い続けてきました。わたしはこ
れからもそうありたいと思います。

(松井良輔)

最近ボランティアをしている知人に頼ま
れて、月1回、老人ホームで童謡やナツメ
口の歌唱指導をすることになってしまいま
した私にとっても人前で歌う練習になっ
て一石二鳥。しかし「美しき天然」「リン
ゴの歌」「青い山脈」といった古めかしい
曲ばかりがレパートリーに加わっていって
ます。 (木村奈保子)

よく考えてみたら、発声練習とかカデン
ツアとか5年ぶりくらいや、ということが
多い。なんとか続けていくというところか
らそろそろ抜け出せるかな? (小西亭)

年をとったんでしょうかね。最近やたら
<昔>がなつかしいです。写真の整理をし
たり、かつての機関誌「ラール」を読み
ふけったりしています。<昔>はよかったと
いうつもりはなく、15年の時の流れの速さ
をぼんやり振り返っている状況です。ブレ
ーミアが誕生したとき頃は実は学生でした。
フロイント・コールの団員だったの
ですが、あの当時、ブレーミアが発足したこ
とはほんとうに嬉しかった。どうしてって
それはあの頃、フロイント・コールは合唱
団といえど、他の合唱団とはひと味もふた
味もちがう合唱団で、存続することすらむ
ずかしく、まして我々と交流できる合唱団
など他にはないという不安が強かったから
です。だからブレーミアが誕生したときには
<姉妹合唱団>あるいは強くバックアッ
プしてくれる合唱団ができたのだとひそか
に喜びました。

人団して私が自由に活動できたのは1987
年～1991年ごろ。まだまだフロイント・コ
ールのOBが多い時代で、<昔のフロイント>
を垣間みながら、<ブレーミア>という新
しい合唱団の顔を作り始めた時期でした。
本格的なライブ活動が始まってからは、育
休中でかかわりが薄く、作り上げてきた実
感に乏しいのが本音ですが、それでも15年
の歴史の厚みのようなものをときどき感じ



冬合宿にて(1991年ごろ)

ことがあります。

15年はやがて20年になり、25年になるでしょうね。どんな姿で歌い続けているのか、自分自身の変化を見るのも楽しみです。どのような歌をつくり続けていくのか、楽しいような、それでいて苦しいような気がします。

遊びのようで遊びじゃないサークル活動、〈楽しければいいじゃないか〉というレベルでない活動というのは社会人にとって、私にとってでしょうか、人生には必要だと思っています。長くなりましたが、雑感でした。
(土田元子)

単に歌を歌いたいから……と軽い気持ちで足を踏み入れてから、今日に至っています。今さらながら団としての活動を続けていくことの大変さを痛感しています。ただ、単に楽しく歌い続けていけたらいいのにナンて、少しばかりぜいたくを望んでます。

(谷田京子)

結成15年というと「長い期間やっているね」「すごいね」などとよく言われます。そのたびに、「でも、ローリング・ストーンズだって、PP&Mだってもっと長くやってるでしょうが……」と憎まれ口を叩くのですが、本当は年々忙しくなる仕事や子育てなどの困難を乗りこえて、よくやってきたなあ、というところが実感です。選曲に



七タライブ 本番前リハーサル中のスナップ(1994年)

もメンバーがそのときどきに直面する問題が表れているようで、年譜をたどるのは面白い作業でした。

アンケートによると、ほとんどのメンバーにとって、合唱団ブレーミアは趣味の域を超えた、まじめに向き合う、自分を形成する大事な活動になっています。

毎週土曜日の練習を終えた後、数人で繰り込む中華料理店「大東」のご主人は、「いつも友だちと会って、歌って、食事を一緒にする、楽しくていいね」とおいしくボリュームたっぷりの料理を出しながら言ってくれます。創作の苦しみ、意見の食い違いもありますから、練習は楽しいばかりではありません。でも、ご主人の言うとおり、こんな仲間や活動に恵まれた幸せにあらためて感謝しました。

また、本文では触れることはできませんでしたが、ブレーミアはにたくさんの人々にお世話になっています。(その中にはもちろん、家族たちも含まれています。みんな、ありがとう!)

とくに、ベビーシッターで協力をいただいている株式会社ハート・アンド・キャリアのスタッフの皆さん、何度もライブではお世話になり、いつもすばらしい音響と照明で私たちのステージを盛り立てて下さっているトライホールのフロデューサー・大谷燠さんにはこの場を借りてお礼を申し上げます。

さて、15年のあいだにはこの冊子には掲載しきれないたくさんできごとがありました。いろいろな理由で活動を離れざるを得なかった仲間もたくさんいます。それらのすべてを紹介できなかったのはとても残念なのですが、それは次の機会にゆずり、ひとまず、編集後記としたいと思います。

(千葉潮)

2000年7月9日 発行

合唱団ブレーミア ホームページ <http://wwwxxxxxxxxx/xxxxxxxxxx.html>

〒 530-0000 大阪市北区××× TEL 06(0000)0000 FAX 06(0000)0000

メールアドレス vremya@xxx.xxx.com